

令和5年(ワ)第421号 国家賠償等請求事件

原告 ●●●●

被告 国外3名

準備書面 (15)

令和6年3月29日

福岡地方裁判所小倉支部第3民事部 御中

原告訴訟代理人

弁護士 南 出 喜 久 治 代

弁護士 木 原 功 仁 哉

(ワクチン接種後のリンパ球減少と死亡との因果関係について)

第一 本準備書面の目的

原告は、準備書面(13)第二、三において、全国有志医師の会代表の藤沢明徳医師が「コロナワクチンの接種直後には白血球の中のリンパ球が大幅に減少します。リンパ球はウイルス感染に対して防御的に働く白血球の中核成分で、その数が減るとウイルス感染に対してほぼ丸裸の状態となります。」と説明した(甲28)とほり、ワクチン接種によつて免疫機能が低下することは明らかであることを主張した。

本準備書面は、その医学的根拠について詳述するものである。

第二 ワクチン接種後のリンパ球減少を示した論文

一 はじめに

Sahin, et al., COVID-19 vaccine BNT162b1 elicits human antibody and TH1 T cell responses. Nature, Jan 19, 2020. (和訳: COVID-19 ワクチン BNT162b1 はヒト抗体および TH1 T 細胞応答を誘発する) (甲41の1、甲41の2) は、論文全体の要旨としては、BNT162b1 mRNA ワクチンによつて COVID-19 を予防する可能性があることを示唆してゐるといふものである。

しかしながら、接種後 2 日後に、リンパ球の有意な減少があり、その程度は AIDS（後天性免疫不全症候群）のレベルにまで達するといふデータが存在し、同データがトップ・ジャーナルとされる Nature 誌に掲載されてゐるのである。

二 リンパ球の意義

まづ、リンパ球の意義及びはたらきについて概説する。

免疫には多くの器官が関はつてゐる。物理的・科学的防御に関はるのが皮膚であつたり、外界が体の内側にまで入り込んでゐる部分（鼻腔・消化管・気管）の粘膜であり、これらがバリアとなり異物の侵入を阻止する。

そして、バリアを破つて体内に入った異物は白血球により処理される。白血球にはさまざまな種類があり、「食作用」の主役である好中球やマクロファージ、適応免疫（獲得免疫）にはたらくリンパ球（T 細胞、B 細胞）はすべて白血球である（甲 42・309 頁）。

健常な成人のリンパ球数は $2/n\ell \sim 5/n\ell$ ($2000/\mu\ell \sim 5000\mu\ell$) であり、 $1.5/n\ell$ ($1500/\mu\ell$) 以下になることをリンパ球減少症といふ。リンパ球の 80% を占めるのが T 細胞である（甲 43）。

適応免疫には、リンパ球の T 細胞と B 細胞が関はつてゐる。T 細胞はヘルパー T 細胞（適応免疫の司令塔であり、B 細胞やキラー T 細胞を活性化する）とキラー T 細胞（ウイルスなどに感染した細胞を攻撃する）に分けられる（甲 44・312 頁）。

このやうに、リンパ球は、病原体侵襲時にこれを除去するためにはたらく適応免疫として極めて重要な役割を果たすのであり、その機能の詳細は甲 44・309～323 頁のとほりであるから、ここに引用する。

三 リンパ球の激減と日和見感染症

甲 41 の 1 の拡張データ図 3 について、東京大学大学院医学研究科（免疫学）の新田剛准教授の注釈を加へた図が甲 42 であるが、これによると、接種 2 日後に、ヘルパー T 細胞の数が $0.2/n\ell$ ($200/\mu\ell$) 以下といふ AIDS 発症レベル前後にまで低下するのである。

リンパ球の減少と日和見感染症の関係について、アスリートが激しい運動によりいはゆる“open window 理論”（開かれた窓理論）により血中のリンパ球数が減少して免疫力が低下し、感染症に罹りやすくなる（日和見感染症のリスクが増大する）との知見が存在する。

すなはち、Pedersen BK, et al, How Physical Exercise Influences the Establishment of Infections. Sports Medicine, Oct 7, 2012. (和訳：運動が感染症の成立に与え

る影響) (甲 45 の 1、甲 45 の 2) には「長時間の激しい運動後、血液中のリンパ球の数は減少し、ナチュラルキラー細胞の機能は抑制され、さらに分泌性免疫も低下する。この免疫低下期は、しばしば“開かれた窓 (open window)”と呼ばれ、宿主は第一防御ラインをバイパスして微生物に感染しやすくなる。」とされる。

“open window 理論”に基づく日和見感染症とは、宿主の感染に対する防御能が何らかの原因によつて低下した時に、通常ではほとんど病気をおこさないやうな病原体 (弱毒微生物、被病原微生物、平素無害菌などと呼ばれる) によつて引き起こされる感染症のことをいふ。

すなはち、これらの病原体は、通常は人体に常在してゐて正常な免疫状態では感染症を引き起こさないものであつたり (細菌やカンジダ等)、環境中には多数存在しいつも暴露されてゐるが、健常人ではその免疫能で発病に至らないものであつたり (アスペルギルス等)、過去に不顕性感染し潜在化したか、宿主の免疫能が低下したため活性化され発病するのである (結核菌、ヘルペスやサイトメガロウィルス[CMV]等)。

よつて、前述のとほり本件ワクチン接種によりリンパ球が激減するといふデータが存在するのであるから、これにより免疫機能が低下し、武漢ウイルスをはじめとするさまざまな感染症にかかるリスクが上昇するといへる。

第三 武漢ウイルス感染の原因はワクチン接種である

堀川についても、令和3年8月25日に本件ワクチンを接種した後に体調不良となり、3日後の同月28日までにKT39.0℃の高熱が連日続き、同年9月3日に●●クリニックに発熱外来で受診したときにはKT40.0℃で、肺炎により呼吸困難を来すやうになつた。

そして、同日にCOVID-19抗原検査で陽性となり、COVID-19肺炎中等症Ⅱと診断された(丁1・9頁)としても、その原因は、本件ワクチン接種による免疫力低下であるから、その後に肺炎が悪化して死亡したこととの因果関係は否定されないのである。